

令和7年2月6日

各報道機関 御中

国立大学法人山梨大学

山梨大学・国際医療福祉大学合同記念シンポジウム ～大学におけるこれからの胚培養士育成の在り方～の開催について

本学では、生命系データサイエンスならびに発生工学を中心とした基礎教育を中心に、学部・修士6年一貫による胚培養士^{※1}育成を目指した取り組みを行っています。令和6年5月からは、国際医療福祉大学^{※2}と相互の教育資源を生かした単位互換等での連携を開始するなど、より一層充実した胚培養士育成に向けた教育体制の強化を図ってきました。

この度、両大学の連携を記念して、合同でシンポジウム「大学におけるこれからの胚培養士育成の在り方」を下記のとおり開催いたします。

本シンポジウムでは、生殖医療で働く胚培養士の現状と将来に向けた課題の他、胚培養士育成に取り組む大学がその取り組みと課題について講演します。

つきましては、当日の取材についてどうぞよろしくお願いいたします。

(※1) 胚培養士…不妊治療に携わる医療系技術職。生殖補助技術を専門とし、医師の指導のもと、体外に取り出された配偶子（精子・卵子）や受精卵（胚）を取扱い、体外受精や顕微授精、胚の培養、凍結保存などを実施する。

(※2) 国際医療福祉大学…平成17年に日本で初めて胚培養士育成のための大学院修士課程を開設するなど、生殖医療分野における多くの教育研究実績を有する。

記

日時 : 令和7年2月8日（土）13:00～17:00
場所 : 大村智記念学術館 大村記念ホール
(山梨県甲府市武田4-4-37)

タイムテーブル:

13:00～ 開会挨拶・主旨説明
13:15～【第一部講演】胚培養士の現状と将来に向けた課題
14:50～【第二部講演】各大学における胚培養士育成の取り組みと課題
(国際医療福祉大学、北里大学、岡山大学、近畿大学、山梨大学)
16:50～ 挨拶・閉会

【取材について】

※取材を希望される報道関係者は、当日の12:40までに直接会場へお越しくください。

※質問等がある場合には、当日本学職員が対応させていただきます。

(シンポジウムに関する問合せ)
山梨大学高度生殖補助技術センター
センター長 岸上 哲士
TEL : 055-220-8535
E-mail : cart-as@yamanashi.ac.jp

(広報に関する問合せ)
山梨大学総務企画部総務課広報・渉外室
TEL : 055-220-8005
E-mail : koho@yamanashi.ac.jp

大学におけるこれからの 胚培養士育成のあり方

胚培養士の現状と課題および大学における胚培養士育成の取組み学部教育からリカレント教育まで

令和7年**2月8日(土)** 13:00~17:00

会場：山梨大学 大村記念ホール 山梨県甲府市武田4-4-37
(オンラインでのリアルタイム配信もあります)

シンポジウム
参加費
無料



事前申し込み方法

New*オンライン参加のみ事前申し込みを2月5日まで延長します

参加をご希望される方は**1月31日**までに二次元コードもしくは、下記URLから申し込みをお願いいたします。

<https://docs.google.com/forms/d/1XlFenBqep0R8TE8fRzpuP2-JWYqnULo6TUixP4xXjsA/edit>

プログラム

開会の挨拶

奥田 徹(山梨大学 理事・副学長)

シンポジウムの主旨説明

岸上 哲士(山梨大学高度生殖補助技術センター 教授)

第一部 胚培養士の現状と将来に向けた課題

胚培養士の国家資格化について

※ビデオメッセージ

和田 政宗(自民党参議院議員)

患者にとっての培養士～国家資格化にむけて

※ビデオメッセージ

東尾 理子(NPO法人TGP理事長)

日本の生殖医療の現状と問題点

堤 治(国際医療福祉大学大学院 教授)

日本の未来、山梨の未来を見据えた診療、 教育の在り方

吉野 修(山梨大学産婦人科教室 教授)

第二部 各大学における胚培養士育成の取組みと課題

岡山大学における生殖補助医療技術キャリアの養成

舟橋 弘晃(岡山大学環境生命自然科学学域 教授)

近畿大学の教育・研究が導く胚培養士への道

三谷 匡(近畿大学生物理工学部 教授)

国際医療福祉大学における胚培養士の育成

猪鼻 達仁(国際医療福祉大学大学院 講師)

北里大学獣医学部における胚培養士育成教育の 取組みについて

桃沢 健二(北里大学 獣医学部 動物資源科学科 准教授)

山梨大学における発生工学の基礎教育の取組みについて

若山 照彦(山梨大学発生工学研究センター長)

山梨大学における胚培養士育成の取組み

古里 咲綺乃(山梨大学高度生殖補助技術センター 特任助教)

閉会の挨拶

幸田 尚(山梨大学生命環境学部 教授)

18:00

情報交換会 会場：ベルクラシック甲府

山梨大学・国際医療福祉大学合同記念シンポジウム

大学におけるこれからの 胚培養士育成のあり方

胚培養士の現状と課題および大学における胚培養士育成の取組み学部教育からリカレント教育まで

令和7年2月8日（土）13時00分～17時00分

山梨大学 大村智記念学術館
大村記念ホール

プログラム

1. 13:00-13:05 開会の挨拶
奥田 徹 (山梨大学 教学担当理事)
2. 13:05-13:15 シンポジウムの主旨説明
岸上 哲士 (山梨大学生命環境学部生命工学科 教授)

第一部 胚培養士の現状と将来に向けた課題

3. 13:15-13:35 「胚培養士の国家資格化について」ビデオメッセージ
和田 政宗 (自民党参議院議員)
4. 13:35-13:55 「患者にとっての培養士～国家資格化にむけて」ビデオメッセージ
東尾 理子 (NPO法人TGP 理事長)
5. 13:55-14:15 「日本の生殖医療の現状と問題点」
堤 治 (国際医療福祉大学大学院 教授)
6. 14:15-14:35 「日本の未来、山梨の未来を見据えた診療、教育の在り方」
吉野 修 (山梨大学医学部産婦人科 教授)

休息 14:35-14:50

第二部 各大学における胚培養士育成の取組みと課題

7. 14:50-15:10 「岡山大学における生殖補助医療技術キャリアの養成」
舟橋 弘晃 (岡山大学環境生命自然科学学域 教授)
8. 15:10-15:30 「近畿大学の教育・研究が導く胚培養士への道」
三谷 匡 (近畿大学生物理工学部 教授)
9. 15:30-15:50 「国際医療福祉大学における胚培養士の育成」
猪鼻 達仁 (国際医療福祉大学大学院 講師)
10. 15:50-16:10 「北里大学獣医学部における胚培養士育成教育の取組みについて」
桃沢 健二 (北里大学 獣医学部 動物資源科学科 准教授)
11. 16:10-16:30 「山梨大学における発生工学の基礎教育の取組みについて」
若山 照彦 (山梨大学発生工学研究センター センター長)
12. 16:30-16:50 「山梨大学における胚培養士育成の取組み」
古里 咲綺乃 (山梨大学高度生殖補助技術センター 特任助教)
13. 16:50-17:00 閉会の挨拶
幸田 尚 (山梨大学生命環境学部生命工学科 教授)

講師紹介

和田 政宗 参議院議員

不妊治療経験者として、自民党内に「不妊治療支援議員連盟」を立ち上げ、事務局長に就任。令和4年4月からの不妊治療の保険適用を実現する。不育症や、小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法への助成金創設にも携わり、胚培養士の国家資格化を目指している。

東尾 理子 NPO法人TGP理事長

プロゴルファーとして日本をはじめ世界で活躍。結婚後、自身の妊活の経験から「TGP」（=Trying to Get Pregnant. “妊娠しようがんばっている”の意。と称しボランティアで妊活支援を始める。2021年10月に、「株式会社TGP」「NPO法人TGP」を設立し、包括的性教育をはじめ妊娠の知識の向上を目指す講座やイベントを企画・開催している。

堤 治 国際医療福祉大学大学院教授

産婦人科医として1979年から卵子の研究に取り組み、東京大学産科婦人科教授から、山王病院に転出。リプロダクション・婦人科内視鏡治療センターで不妊治療を中心に診療をおこないながら、社会啓発活動にも注力。国際医療福祉大学大学院教授として胚培養士の教育、育成にも従事している。

吉野 修 山梨大学医学部産婦人科教室教授

不妊症の原因として知られている子宮内膜症の基礎的、臨床的研究にこれまで従事してきました。研究を通して、月経困難症の克服が、日本の少子化対策に繋がることを確信し、日々邁進しております。

舟橋 弘晃 岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域教授・生殖補助医療技術教育研究センター教授

長く哺乳動物の雌雄生殖細胞（精子・卵母細胞）の成熟や受精・初期発生能に関する研究を行っている。

三谷 匡 近畿大学生物理工学部遺伝子工学科・大学院生物理工学研究科教授

哺乳動物の受精・発生のしくみを知り、応用することを目指しています。新たな生命として生まれる受精卵での転写スイッチ起動の仕組み、胚性ゲノム活性化でみられるダイナミックなクロマチンリモデリングの仕組みとクローン技術への応用、卵や精子の質の低下、絶滅危惧動物の再生に関する研究に取り組んでいます。

猪鼻 達仁 国際医療福祉大学大学院講師

山王病院で培養室長として培養室の運営を統括している。国際医療福祉大学では胚培養士のキャリアアップや胚培養士への就職を目指す方へ知識や技術指導を行っている。日本臨床エンブリオロジスト学会では副理事長を務めて、後進の育成に尽力している。

桃沢 健二 北里大学獣医学部動物資源科学科准教授

動物生殖学研究室に所属しています。若い頃は牛体外胚生産に関する研究、特に牛胚の既知組成培養液の開発に取り組んでいました。最近では、民間企業との共同研究開発により、新規の超急速ガラス化保存デバイスの製品化に成功しています。現在は、この新規デバイスでガラス化保存した牛胚のダイレクト移植への適用研究やマウス卵子のガラス化保存に対する新規デバイスの有効性に関する研究に取り組んでいます。

若山 照彦 山梨大学発生工学研究センター センター長・生命環境学部教授

専門は顕微授精などで用いられるマイクロマニピュレーターの技術を磨き、新たな生殖方法を開発すること。精子を凍結乾燥して常温で保存可能にする技術や絶滅危惧種の尿からクローンを作る技術の開発、国際宇宙ステーションを利用した宇宙での生殖の可能性などの研究を行っている。

古里 咲綺乃 山梨大学高度生殖医療センター 特任助教

大規模施設で胚培養士として不妊治療に携わり、胚培養の技術と知識を磨いてきた。2023年4月から山梨大学高度生殖医療センターに着任し、胚培養士を目指す学生の教育・育成に力を注いでいる。また、山梨大学医学部付属病院で胚培養業務に従事している。

関係者紹介

奥田 徹 山梨大学理事（教学担当）

T型人材（特定の専門分野を極めながら、幅広い分野の知見や経験を持つ人材）が求められる時代において、大学が持つ資源を集めて教育する大学連携の重要さはますます高まっています。皆様の先進的な活動を影から支えていきたいと思っています。専門はワインの成分分析で、おいしいワインの製造に役立つ研究をしたいと考えています。

岸上 哲士 山梨大学生命環境学部生命工学科・山梨大学高度生殖補助技術センター教授

着床前胚の発生および体外発生率を改善する研究を行ってきました。最近では胚の発生時期における低栄養などの栄養環境が将来糖尿病など生活習慣病のリスクになる仕組みの解明や予防する研究にも取り組んでいます。

幸田 尚 山梨大学生命環境学部生命工学科・山梨大学高度生殖補助技術センター教授

ゲノムインプリンティングを中心にエピジェネティクスの研究を行ってきました。DNAメチル化の解析手法の開発やヒトを含む初期胚の遺伝子発現解析も行い、胚操作の技術がゲノムに与える影響について研究を進めています。



アンケートご協力をお願い



本日は大変お忙しい中、本シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。

教育機関での胚培養士育成に関する活動をより良くするために、皆様のご意見をぜひお聞かせください。

二次元コードもしくは、下記URLからアンケートへの回答をお願いいたします。

https://docs.google.com/forms/d/1WAhZalez69nrDVPRsw4VVTyiH8DZ8zfSfoAnWb-_jZQ/edit